

通信・IT ネットワークの分野では、日々新しい技術が開発され、より効率的で、より安価なサービスが次々と生み出されています。知らないことは、イコール企業利益の損失です。そこで私たち大和電設工業は、情報通信やITソリューションの『知って得する最新情報』を、お世話になっている皆様に定期的にお伝えしていきます。隔月発行のDDK通信、ぜひお楽しみください。

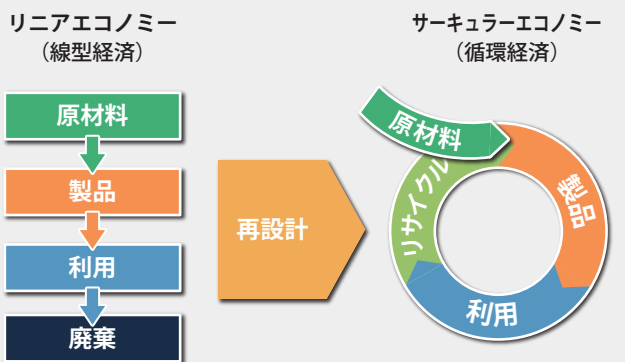
サーキュラーエコノミーとは？

サーキュラーエコノミーとは、日本語で「循環経済」を意味します。大量生産・大量消費・大量廃棄が一方向に進むリニアエコノミー（線型経済）に代わって、新たな経済の仕組みとして世界的に注目されています。あらゆる段階で資源の効率的・循環的

な利用を図りつつ、付加価値の最大化を目指す社会経済システムを意味し、経済の仕組みを変える政策として、特にヨーロッパを中心に推進されており、ビジネス界もサーキュラーエコノミーを意識した活動に変化していこうとしています。

地球温暖化の遠因「リニアエコノミー」

リニアエコノミーとサーキュラーエコノミーの違い



(参考：環境省)

今年も当たり前の様に35度を超える猛暑(いや酷暑)で、関西では41.2度を記録して日本一とニュースを賑わしておりました(すぐに群馬県に抜かれたようですが)。かと思うとゲリラ豪雨や台風で甚大な被害。なのに冬は大雪という有様。もはや春夏秋冬の四季ではなく、夏夏夏冬の二季と言っても過言ではありません。

この一因と言われているのが、地球温暖化(最近は沸騰化とも言うらしい)であり、更にその遠因の一つが左記のリニアエコノミーだと言われています。リニアエコノミーは、「線型経済」を意味し、資源の採掘に始まり、大量生産を経て、最後には大量に廃棄するという、一方通行的な経済活動のことです。地球温暖化対策に関しては、今後の環境ISOの改訂でも、企業に求められる要件として盛り込まれる可能性があるようです。

「サーキュラーエコノミー」の三原則

- 01 廃棄物や汚染をなくす
- 02 製品・素材を循環させる
- 03 自然を再生する

サーキュラーエコノミーは、人間活動に起因する地球規模の課題(気候変動や環境汚染など)を解決するために、人間社会のベースとなるシステムです。と言ってもなかなか実感のないお話なのですが、私たちの身の回りの話に置き換えますとモノやサービスの生産・消費・廃棄の際の環境負荷を事前に考慮・設計することが求められてきます。

また新しい資源の利用を抑え、地球上の資源を循環させる設計が前提となってきます。要はこれからの製品・サービスはその設計段階から「廃棄や汚染を出さない」ということがポイントとなってきます。

「サーキュラーエコノミー」が注目される理由と今後

サーキュラーエコノミーが注目されるのは、1つ目に海洋プラスチックごみなどによる海洋汚染や気候変動などの環境問題に対する危機意識が高まり、「廃棄物削減、温室効果ガス対策として、製品やサービスのあり方を変える必要がある」という考え方が広まってきていることです。

2つ目は、資源の枯渇により製品を作る際の原材料が減少する恐れが強まっていることです。「このままではビジネスが立ちいなくなる可能性がある」と気づいた企業を中心に、資源が循環する形のビジネスモデルを迫り出しているのです。

世界へ広まりを見せているサーキュラーエコノミーですが、日本でも経済産業省や環境省、内閣府が中心になって様々な取組みを始めています。国の計画ではEUと同じく2030年頃には関連市場規模80兆円を目指しています。日本は災害が多いことや、世界の経済情勢などでこの目標がどこまで達成できるかわかりませんが、企業は、「サーキュラーエコノミー」の視点から製品やサービスを事業に取り入れることを、今後は検討しなければならなくなってきています。